

令和5年11月 市長定例記者会見

令和5年11月1日(水)

午後1時30分 開始

【秘書広報課主幹】 それでは、ただいまから定例記者会見を開始させていただきます。

初めに、市長よりご挨拶申し上げます。

【市長】 こんにちは。今日、取材も来ていただいた方もいるかと思えますけれども、令和5年度の市政功労者の表彰式を行いました。教育分野をはじめとした5人の方です。それぞれのお立場で、長年にわたりご活躍されました。今日来ていただいた方というのは、いずれの方も市政の発展とよく決まり文句のように言いますがご尽力いただき、市政の発展、それから福祉関係の方、大きく貢献をいただいた方に今日受賞していただいた。改めてこれまでのご尽力、それからご貢献に対して感謝を改めて申し上げたいと思います。

最近のことで言いますと、先週末、皆様、いろんな行事、イベント、ご取材いただいたかと思えます。例えば、市役所で言いますと、先週末、自衛消防隊操法大会がありました。初めてこの場所でやったんですけれども。ほか、私も行ってきたんですけれども、地区の福祉の集いやお祭り、そういうイベントが各地市内で行われました。

いろんな会場に行って、明らかに1年前と変わってきたなというのは、やっぱり新幹線のことを市民の方から言っていただけになったと思っています。盛り上げていかなあかんとか、あれどうするのみたいなことで大分関心が高まってきている、雰囲気が上がってきているなと感じています。

また、先週末、埼玉県のイオンモール与野や越谷のレイクタウンに行って、トップセールスという形で、観光、それから物産、敦賀にはこういうものがありますよという紹介してきました。

そういうことも含めて、私がやるべきこと、それから市民の皆さんに盛り上げていただくことを含めて、開業機運の醸成につなげていきたい、努めていきたいと思っています。

それから、先週、市長として初めて海外出張ということで、敦賀市訪韓親善使節団として、それからポートセールス、この2つを韓国で行ってきました。

使節団の派遣事業ということでいいますと、市議会、馬淵議長とともに東海（ドンヘイ）市を訪問しまして、東海市の市長さんをはじめ幹部の方々と面談。それから、本当によくしていただいて、いろいろと視察に連れて行っていただきました。

ポートセールスでは、敦賀港に定期航路を就航している韓国船社4社ございますけれど

も、そこに対してポートセールスを実施してきました。

韓国東海市を「ドンヘイ」と言っていますが、今まで「トンヘイ」と言っていたと思います。今回現地へ行ったら、現地のアルファベットのスペルもTからDに変えたと。発音もドンヘイと言っていて、Dのほうが近いんだという話だったので、これからじゃドンヘイと言ったほうがいいのかなど。まだ市役所内ではオーソライズしてないのですが、これからは交流、それからポートセールスということでは敦賀港の活性化のために努力していきたいと思っています。

それから、10月に入ってから各地で区長と語る会をやっています。公民館の地区単位でやっていますので10か所でやることになっているんですが、昨日で10分の6終わりました。今日もあるので、今日で10分の7やることになるんですけども、本当に密度の濃い話ができているなどと思っています。地域に密着した課題や、この地域をこういう方向で持っていきたいというようなことを高齢化も進んで、地域コミュニティの維持が大変になっている中で、皆さん真剣に考えていらっしゃる。我々は、新幹線だという話はあるんですけども、地域一人一人、各地区、各地区の生活というのは大事で、本当に身近な意見の拾い上げというのが必要で大切だということをつくづく思われる今までの10分の6会場でした。

私、就任してから、地区でやっていること以外でも、例えば商工業、経済界、それから製造業、ものづくり関係、あと農業関係、それから水産業関係、それから土木、建築関係、それから労働団体、教育関係、様々な団体さんと懇談会とか意見交換会、語る会、いろんな名前をつけてやっていますが、そういうことをやっています。

これからも続けていきたいと思っていますし、そこでいただいた意見、もう既に、いただいで対応している部分というのは既にありますが、これからも引き続き意見交換や対話を実施して、皆さんの意見を市政に反映していきたいなと思っています。

【秘書広報課主幹】 では、本日、市長からの事業発表はございませんので、フリーの質問対応に移りたいと思います。

【記者】 今日からパートナーシップ宣誓制度のほうが敦賀市のほうでも始まりました。市長として、改めて、この制度を通して、敦賀市をどのようにしていきたいか。この制度の意義をどのように考えているか、教えてください。

【市長】 議会でも、それから記者会見でも今まで申し上げてきましたが、自分の性的な指向などによって不利益を被るということは、それはないほうがいい。そうはいつでも、

今まで様々な法律上の問題もあって、実際権利というか、行政手続上、難しいところがあったんですけども、今回このパートナーシップ制度を導入し洗い出すことによって、そういうことを少しでもなくしていこうということのをこれからやっていきたい。

それを導入したからゴールということではなくて、スタートだと思っていまして、まだ我々の気がついてないこととか、そういうこともあるかと思えます。それからもう一つ大事なのが、議会でもご指摘をいただきましたが、啓蒙活動などもこれから必要になってくると思えますので、この制度の導入をスタートとして、しっかりとそういうことに取り組んでいきたいと思っています。

【秘書広報課主幹】 幹事社さん、よろしいですか。

では次に、各社の方よりお願いいたします。

【記者】 先日、はびバスの出発式があったと思うんですけども、新幹線の開業に向けて、二次交通の課題とその充実度というのはどうお考えでしょうか。

【市長】 二次交通というのは、引き続きまだ課題だなと感じます。これでいいよということではないんじゃないかなと思っています。

とはいえ、県もいろいろ事業を考えていただいている、二次交通ということには取り組むということになっている。機運が盛り上がってきたという話をしましたが、それでは1年前って、例えばレンタカーとかの話をしているときに、いやいや、そんなレンタカー需要はないんじゃないかみたいな話を1年前だったらしていた。それが今、二次交通これで大丈夫かという話になってきていて、そういう意味では、皆さんの意識や課題認識というのがちょっと変わってきたというか大きく変わってきた。

そういうこともあって、初めからそんなの予測していたよという人もいるかもしれませんが、そういう意味で言うと、ひょっとすると3月16日に間に合わない案件も出てくるかもしれませんし、3月16日過ぎたときに、こういうことがまだあるんだということも分かってくるかもしれない。二次交通というのは引き続き課題として取り組んでいく。今の段階で何がスタートできるだろう。何がやれるだろう。それから3月16日以降の様子を見て、何をやっていくべきだろうということは、引き続きやっていかなきゃいけないんだろうなと思っています。

【記者】 市長、先日、県の原子力総合防災訓練も視察されたりもされていましたが、1点、今年に入って高浜の原発が全て動いて4基体制ということで、全国で一番多い体制になった。一つ福島教訓として、複数の炉で同時多発的に事態がそれぞれ進行して

いくという、これにどう対応していくかということで、一番大事なのは発電所内の防災なんでしょうけれども、住民避難という点でも、途中で方針が変わったりということが福島でもたくさんあって、住民の方に対応しろといってもちょっと無理な話だと思うので、どういった対応が取れるのかが行政側で非常に大きな課題だと思います。この点について、現状の備えであったり、これから必要なこと、お考えをお聞かせください。

【市長】 総合訓練のとき毎回、課題として上がるというか、いざ複数でなったらどうするんですかと。言われている意味は、例えば高浜の中でも複数ということがあるかもしれませんが、高浜、大飯、同時にとかいうこともあるということなんです、今の訓練というのは、今まで多分一回も複数は想定したことないですよ。サイトというか、例えば大飯、高浜、複数とか、高浜、美浜、複数とか、そういうことを想定したことはなかったような気がします。

そういう意味では、じゃどういう体制が取れるんだということ、多分ですが、今のところは個別にそのまま複数であっても実行するということになるのかなと思っています。ご指摘のように、総合訓練のときに、例えば新聞記事とかでもそこを指摘する声があった気がします。同時に起こった福島のようなことを想定したときに、この訓練、個別で毎年回してやっているやり方でいいのかみたいな指摘や記事が読んだことがあるような気がしますので、それは、また我々立地市町で集まる機会、あるいは県とコミュニケーションを取る機会というのはありますので、そういうところで課題に上げていくべき話なのかなというふうに思います。

今の段階だと、実際、何か起こったらとなると、個別の計画で対応することになるんだと思います。

【記者】 あと全く別の話題で、先ほど市長も触れられていたとおり、新幹線に対する機運の変わりようは私も非常に感じている。今どこに行っても新幹線の話が出てくるということ。

いろいろ取材していると、私の実感としては、otta（オッタ）の開業が結果的に1年早かったというので、目に見える変化というので市民に影響があったのかなと感じているんですけども、市長の中で、機運の盛り上がりやそういうところ、どういったきっかけがあってこういうふうになってきているのかなという分析や、感じられているところがあれば教えてください。

【市長】 それは実際に、新幹線が入ってきたり、結構目で見えて分かりやすく新幹線が近

づいてきていると思うんです。駅はほぼ完成、新幹線、試験車両が入ってきました。次、W7系が入ってきました。本当に分かりやすく、目で見ても開業カウントダウンしているなどというのあったり、もちろんニュースでも取り上げられます。

そういうこともあって盛り上がってきている上に、ちょうどコロナが5月に明けて、割と通常のコロナ前に戻ってきているとのもあって、イベントもコロナ前のような形で打てるようになってきて、そこに、例えば敦賀まつりにしても新幹線開業200日前イベントという冠がついたり、あるいは今度のミライエにしても100日前イベントというタイトルをつけることができるという形になって、分かりやすく新幹線が近づいていると皆さん実感されていると思います。

だからこそ、さっきの二次交通の話などが出てくるのかなとも思うんです。

そ肌感、リアルな感じとして出てきているのかな。そこで盛り上がってきているのかなと思います。

【記者】 まず先ほど最初にお話しされていた韓国のお話で、韓国へ行かれて、この数年、非常に日韓関係が改善しているというような話もあります。市長は、何かそういったことで肌感覚として感じられたものはあるかなというのと、あとは、ちょっと柔らかい話で恐縮なんですけど、東海で何かお勧めのスポットや食物等、グルメがあったら、ぜひ教えてください。

【市長】 韓国の日本に対する国民感情ということであると、例えば数年前の報道とかいろいろあったと思うんですけれども、全然感じなかった。反日的なというところちょっとストレート過ぎるかもしれませんが、本当に感じなかった。

今回お会いしたのは、もともと東海市というのは姉妹都市で友好的な関係にあり、それから会社関係でいうとビジネスマンが多かったので、あまりそこまでイデオロギーにこだわるといことはなかったのかもしれませんが、むしろ心配しなくていいですよみたいなことを言われたりしました。東海でもソウルでも。

だからそういう意味では、改善されたという話なのか、もともと、すごく盛り上がっているのはそんなに多いことなかったのかは分かりませんが、今回私が行ったことに関していうと、本当に感じなかったです。

それから、東海のお勧めスポットということであると、東海って、この10年間で観光投資を本当にしているなどというのが分かりました。KTXという韓国の新幹線に当たるものが東海市までつながったということもあり、それに向けて観光に力を入れてきたという

こともあって、観光スポット、大きいところで3つか連れて行っていただいたんですけども、3つともこの10年間で作られて、かなりの投資をされているというのが分かる。例えば海沿いの施設だったり、それから山の中にある施設だったりとか、本当に東海の自然を生かした観光スポットというのがあって、そこは行かれたら絶対楽しめると思います。

お勧めの物産ということでいうと、おいしかったのは米で造ったワインというのを東海市で造られていて、本当においしかったです。

【記者】 ありがとうございます。

あともう1点、訓練の関連なんですけれども、訓練の関連で、来年、新幹線が来るというのに合わせて、やはり交流人口が増えるかなと思うんですけども、嶺南地域、いわば嶺南の一見さんのような方たちに、原子力防災、いざというときにどういうふう避難について案内するか。こういった点について、現時点での市長のお考えをぜひ伺えればと思います。

【市長】 原子力にかかわらず、敦賀に例えば観光で来られた人、外国人の方に、どう防災のことをお伝えするのかというのは前から課題としてあり、新幹線の影響で、そういう対象になる方が外国人の方も含めて増えるであろうと思います。嶺南地域には原子力発電所があるということで言うと、正直そこまでの取り組みはできていません。多分、外国人だったら国が出しているアプリか何かがあったかと思うんですけども、それをそのまま使うことになるのかなというぐらいで、今のところ特別に何かを用意できているわけではなかなと思います。

そのため、新幹線でたくさん人が来てほしいということ言えば、そういうことも考えていかなければいけないんだろうなと思います。今のところ、そこの準備はそこまで進んでいるとは自信を持って言えないのかなと思います。

【記者】 分かりました。ありがとうございます。

【記者】 2点お伺いします。

先ほど大きな観光投資を東海市がされているということだったんですけども、敦賀ですとオーベルジュの話が今進んでいると思います。そこがどうなっているのかというのが1点と、ムゼウムが3周年を迎えるので、今後の展開や方針、活用の仕方がありましたら教えてください。

【市長】 まずオーベルジュ。今、私、議会答弁などでは、オーベルジュなどを含んだ複合施設という言い方をしているんですけども、これは議会でも申し上げているんですが、

もともと福井県がオーベルジュのようなものをつくりたいという話があり、そこに敦賀市もその主体となる企業さんと連携協定を結びました。今、その主体となる企業さんがどういふ複合施設をつくりたいのか、どういふ運営スキームになっていくのか、そういうことを会社の中で詰めていらっしやる状況です。

我々としては、それを見た上で、どういふ形の協力になるのか、今のところ向こうからの具体的な計画待ちの状況です。

あともう一つがムゼウムですね。

ムゼウムについては、今度3周年でいろんな企画をやるので、またそれも皆さんに見ただけだとありがたいと思います。

ムゼウムという施設は、ご承知のように、いろんな方に見に来ていただいていると思うんです。例えば外国から日本に来られている大使や、日本から外国に行かれる大使、それに関係する方々など、いろんな方に見ていただいているんですけれども、大事なのは、敦賀市民の方にも親しみを持ってもらふということが必要で、敦賀高校の創生部さんも頑張っているんですけれども、あれをどう広げていくのかが今後の課題だと思っています。

正直、お客様が来られても、私はお会いしますけれども、一般の市民の方がお会いする機会というのはなかなかないと思いますし、今回いろんなセミナー的なことも3周年に合わせてやりますので、そういうところで市民の方に参加していただけるとは思うんですけれども、もうちょっと市民の方に、あそこの施設を通じて何かをつかんでいただくとか学んでいただくということをやっていくべき施設なのかなと思っています。

もう一つは、市外の方、県外の方、あるいは外国の方にももっと来ていただくということであると、あそこの施設と、例えば福井県内でもう1か所どこかへ寄っていただく。敦賀市でももちろんいいんですけれども。そういう形で、何かムゼウムが一つルートに入っていてという、何かそういうルートをいろいろ考えていかないといけないのではないかと思います。

例えば、岐阜県の八百津の杉原千畝記念館でも、そこへ行ってから飛騨高山のほうに行く。だから飛騨高山のほうにはユダヤ系の観光客の方が多いという話もあるので、そういう形のルートづくりというのもやっていかないといけないんだろうなと思っています。

【記者】 ありがとうございます。

【市長】 先ほどの原子力の防災訓練の件で、同時発災想定訓練、今までやったことが

あるということで、そこを訂正させてもらいます。

大飯3号機、高浜4号機の同時発災を想定した全国で初めての原子力防災訓練というのを2018年8月、ですから平成30年の8月にやっているということですね。私も改めて勉強して、敦賀だったらということはもう一回考えてみたいと思います。すみません。

【記者】 これまでの話題とちょっと違うんですけども、ふるさと納税の算定率というか基準が10月に変わって1か月たったかと思うんですけども、何かその影響があったという話をお聞きになられているかをお伺いしたいです。

【市長】 影響という意味では、例えば、ふるさと納税の申込みなどは去年よりは多分ペース的には早くなっているのではないのでしょうか。要は駆け込み的な話があって、早くなっているという話があります。

それが先食いし、例年どおりになるのか、それが実はその影響じゃなくてもっと上に行くのかというのは、まだ分からないですね。これは年末に向けて。

一つ今回のことで思ったのは、やはりまだ制度的には安定してないのがふるさと納税の制度だなと思いましたので、そこはいろいろなことを想定して織り込みながら、この制度を活用して敦賀のことをPRしていくということなのかなと思っています。

【記者】 駆け込みがあったということですけども、それに対して、この11月、12月、2か月間ありますけれども、何か対策は特にありませんでしょうか。

【市長】 それについては、特にはないです。

【記者】 分かりました。

あともう1点、これから冬期、冬に入ってくるということで、昨年ですと鉄道で、JRの東海道線で雪で電車が立ち往生してというような事案があったんですけども、福井のほうは、そもそも雪の対策がJRのほうで近畿地方に比べたら大分充実しているのかと思うんですけども、雪で鉄道に何かあったときの対策というのは、新たにするものというのはいくつかありますでしょうか。

【市長】 新たにするものというのと、市でいうと、なかなかこれという話ではないと思うんですけども。

確かに雪にかかわらず、まず不通になる、電車が動かないですよということは、これからも雪の降り方とか雨の降り方によってはあるんだろうなと思います。去年の東海道線は、止まって、かつ長い間、外に出られませんでした。それはJRのルールなどの問題もあって、JRのほうであの後ルールを考えますと言っていたと思うんですが、その後どうなっ

たかは分かりません。なかなかそこについては、市のほうでどうこうという話ではないのかなと思っています。

【記者】 分かりました。ありがとうございました。

【秘書広報課主幹】 ほかにございませんか。

では、以上をもちまして市長記者会見を終了させていただきます。

次に、一般事業発表に移りますので、市長はこれで退席させていただきます。

【市長】 どうもありがとうございました。

【秘書広報課主幹】 それでは次に、市民生活部長から、つるが環境フェア2023の開催についてご説明させていただきます。

【市民生活部長】 市民生活部、中野です。本日は、お時間を頂戴いたしまして、ありがとうございます。

それでは、「つるが環境フェア2023 未来につなぐ自然環境（おたから）！なんでもあ
るで～つるがスキスキ」の開催について発表させていただきます。

お手元にチラシを配付させていただいておりますけれども、つるが環境フェアを11月25
日土曜日、きらめきみなと館において開催いたします。

このイベントは、自然や環境に関連した様々なプログラムを通じて、ご来場いただいた
方々に、日常における身近な自然や環境への配慮について考えていただくきっかけを提供
することを目的に開催いたします。

特別展示では、中池見湿地や海洋ごみ問題について取り上げております。また、特別展
示以外にも、体験型のワークショップや企業・団体の出展など、子供から大人までが一日
中楽しみながら環境に触れ合える充実した内容としております。多くの市民の皆様のご来
場をお待ちしております。

なお、主催につきましては、つるが環境みらいネットワーク、来場見込みにつきましては
500名の方々の来場を見込んでおります。

発表につきましては以上でございます。

【秘書広報課主幹】 では、ただいまの発表項目について質問をお受けいたします。

幹事社の方、よろしいでしょうか。

では、各社の方よりお願いいたします。——よろしいですか。

では、ただいまの発表項目を終了させていただきます。

では、以上をもちまして定例記者会見を終了させていただきます。

ありがとうございました。

午後2時7分 終了